

ketslide によるプレゼンテーション

0. 準備

1. slidesample の例で説明する
2. スライドを作る作業フォルダとその中に fig フォルダを作っておく。
注) fig は固定名称
注) slides のフォルダをコピーして、適宜修正した方がよい。

1. slidesample.txt にならってデータを作成 / 修正

1. 行の最後は必ず // をつける
2. 各ブロックの引数の区切りは::
3. コマンド
 - タイトル::読み込みファイル名 (::壁紙ファイル)//
最初のタイトルページ
注) スライドに置く文字は slide0.cdy で作成
注) 壁紙をつけるときは、もう 1 つ :: で区切ってファイル名を書く
注) preamble に追加するとき、::区切りで書き加え、最後に//
 - new (::行下げ)::タイトル (::位置)::読み込みファイル//
mainslide
例) new::[10)::最初に::{50}{20)::figure//
注) 読み込みファイルのサイズ変更するとき
new::[10)::最初に::{50}{20)::figure,0.8//
他も同様
 - same (::行下げ)((::位置)::読み込みファイル)//
sameslide
 - enumerate (::書式)//
enumerate 環境の始まり
 - itemize //
itemize 環境の始まり
 - layer (::範囲)//
layer 環境の始まり
 - item ::文//
item を追加
 - putnote ::方向と位置::読み込みファイル//
layer 環境の中に図を入れる

例) `putonote::se{30}{10}::figure//` (input のとき)

例) `putonote::se{30}{10}::include[width=5cm]::figure.pdf//includegraphics`
のとき)

- `end//`
`enumerate,itemize,layer` 環境の終わり
- 上記以外//
そのまま TeX に書き出す .

4. 空白行を入れたいときは, `...//`とする .
5. 必要な図はすべて `fig` に入れる

2. `slidesample.cdy` を立ち上げて, `CindyScript/figures` を開く

1. Slidework で作業ディレクトリ (フォルダ名) を設定 (`fig` は不要)
Ex) `Slidework(gethome()+“slide”);`
2. Fhead にスライドタイトル名を入れる . (通常は `slide0` でよい)
3. Texparent に 1 のファイル名 (`.txt` はつけない) を入れる .
4. タイトル画面を編集して, Title ボタンを押す .
5. Slide ボタンを押すと, PDF のスライドが作成される .
注) `ketpic.sty` などが TeX に組み込まれていない場合
`ketpicstyle` フォルダの中身を作業フォルダ内にコピーする

3. 図の表示



図 1: french